

## 平成27年第12回福岡県教育委員会会議（定例会）会議録

### 1 開催日時

平成27年6月4日（木）14時00分から14時24分まで

### 2 場所

福岡県庁4階 教育委員会会議室

### 3 出席委員

住吉徳彦、奥田竜子、清家渉、久保田誠二、宮本美代子、城戸秀明（教育長）

### 4 欠席委員

なし

### 5 出席事務局職員

教育次長 西牟田龍治、理事 友野晃、総務部長 川添弘人、  
教育企画部長 吉田法稔、教育振興部長 辰田一郎、総務課長 木原茂、  
高校教育課長 中島良博

### 6 傍聴者等数

1名

### 7 会議

14時00分、住吉委員長が開会を宣言し、本日の議題について非公開発議の有無の確認を行った。

非公開の発議なく公開と決定された。

#### （1）報告

##### ・本県公立高等学校就職状況について

中島高校教育課長から、高等学校就職状況については、毎年、文部科学省が調査を実施しており、全国の調査結果が公表されたことを受け、本県分について報告するものであり、平成26年度末に公立高等学校を卒業した生徒が25,634人で、この内20.6%が就職を希望し、就職決定者数が5,050人、就職決定率が95.8%となっていることや、学科別の就職決定率などの報告があった。

また、昨年度から、普通科及び総合学科を対象とした高校生キャリア教育推進事業を実施しており、インターンシップの拡充を中心に、進路未定

者や早期離職者の減少に努めていくとともに、強化月間を指定しての全教職員による企業訪問や求人開拓等を引き続き実施し、生徒の進路実現に全力で取り組んでいくとの説明があった。

次いで審議が行われ、清家委員から、福岡県内における離職率及び離職理由について質問があった。

これに対して、中島高校教育課長から、平成22年度卒業生において、就職後3年間で43.7%の離職率である旨の説明があった。また、現場に主な離職理由を聴取したところ、職業が自分に不向きであったこと、及び職場の人間関係でつまづいたということなどであったとの説明があった。

次いで、住吉委員長から、就職決定率の推移について、平成21年度から平成22年度にかけて3%強の伸びを示しているが、その主な要因について質問があった。

これに対して、中島高校教育課長から、平成20年度にいわゆるリーマンショックが発生したことにより就職決定率が下がり、その後回復した数値であると認識している旨の説明があった。

次いで、住吉委員長から、今年は就職内定率の全国平均がアップしているが、福岡県では対前年比から微増であり大きく伸びていない。過去2期にわたって行われた就職指導員の配置が終了したことも影響していると考えているが、今後の就職指導についてどう考えているかの質問があった。

これに対して、中島高校教育課長から、福岡県の就職決定率が全国平均を下回っている理由の一つとして、普通科と総合学科の就職率が低いことが考えられるため、昨年度から高校生キャリア教育推進事業を始め、普通科高校と総合学科高校の拠点校に15名のキャリアコーディネーターを配置し、就職に対する意識付けを行っている旨の説明があった。

これに対して、住吉委員長から、現在のキャリアコーディネーターの業務内容について質問があった。

これに対して、中島高校教育課長から、キャリアコーディネーターは、インターンシップ等を中心に行い、生徒に早くから経験を積ませることで、職業意識や就業意欲を向上させるとともに、就職先の新規開拓を行う等、それぞれの学校の実情に合った活動を行っている旨の説明があった。

次いで、住吉委員長から、本来は学校独自で就職指導を行うことができる体制作りが理想であると思う。就職指導員が配置されている間に、進路担当職員、学校全体が就職指導に関するノウハウ等をもっと学ばなければならなかったのではないかと思うとの意見があった。

これに対して、中島高校教育課長から、昨年度から開始したキャリアコーディネーターについても、就職指導員配置時の意図と共通したものを持たせながら各学校に指導していきたい旨の説明があった。

次いで、久保田委員から、公務員志願者が不合格となった場合の進路状況について質問があった。

これに対して、中島高校教育課長から、具体的なデータはないが、再度公務員を目指して公務員専門学校に通う生徒もいれば、別の職業に就職する生徒もいる旨の説明があった。

次いで、住吉委員長から、最近の傾向として、一つの職業にとどまらず転職、離職する者が多いため、それを解決するためのキャリア教育、インターンシップ制度について、学校職員自身がよく学び、生徒に指導していくことが重要であるとの意見があった。

次いで、宮本委員から、専門学科と就職先との関連について質問があった。

これに対して、中島高校教育課長から、例えば、工業科であればやはり生産関係や建設関係に就職する生徒が多いという状況も一部に見られるが、全体的には必ずしも関連性が見られるわけではない旨の説明があった。

次いで、住吉委員長から、大手企業、中小企業等への就職割合について質問があった。

これに対して、中島高校教育課長から、大手企業、中小企業等への就職割合データはないが、県内県外別だと、県内就職者8割、県外就職者2割程度である旨の説明があった。

住吉委員長から、他の意見の有無を問い、これについては承認された。

住吉委員長が閉会を宣言し、14時24分閉会した。